



Aコース <猪之頭地区>

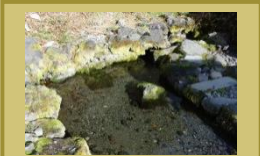
湧水を活かした産業コース

— みどころ —

きれいで豊富な湧水に恵まれ、湧水を活かしたニジマスの養殖やワサビの栽培が行われている。また、源頼朝の富士の巻狩にまつわる伝説が残る場所でもある。水に恵まれた山間の集落を歩く。

みどころポイント 湧水  季節の花 

ゴール



⑨猪之頭湧水群



⑧撫川



⑦陣馬の滝



⑥太鼓石



⑤富士山重忠の桜



スタート&ゴール

県立猪之頭公園
駐車場 P

有料施設内

スタート

県立猪之頭公園
駐車場
猪之頭1013



①静岡県水産技術研究所富士養鱒場 有料



②猪之頭のミツバツツジ






③ワサビ田



④夫婦樺

距離: 約5km 所要時間: 約2時間

マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ  駐車場 P 寺院  神社  湧水 
季節の花  石造物  写真撮影ポイント  ルート — 有料施設内ルート

— コースのみどころ —

しずおかけんすいさんぎじゅつけんきゅうしょ ふじようそんじょう
①静岡県水産技術研究所 富士養鱒場

※場内有料

湧水に恵まれた富士宮市ではニジマスの養殖が盛んであり、市町村別では全国一の出荷量を誇る(平成24年度)。富士養鱒場では養殖に関する研究を行っている。

いのかしら
②猪之頭のミツバツツジ

県指定天然記念物。ミツバツツジの大樹で、地元ではサトイモの植え付け時期に咲くことから「イモウエツツジ」とも呼ばれる。

③ワサビ田

ワサビは水温が低くきれいな水に育つ。猪之頭地区は、大正7～8年(1918～1919)ごろからワサビ田が造成され始めた。

めおとけやき
④夫婦櫓

市保存樹。2本の幹(目通り2.9mと1.4m)が根元でひとつになっている。「夫婦櫓」の名は、明治から昭和にかけての政治家尾崎行雄が命名した。

はたけやましげただ
⑤畠山重忠の桜

富士の巻狩のおり、畠山重忠が馬をつないだ「駒止めの桜」や、重忠が植えた桜であるなどといわれている。この近くに、重忠の陣所が置かれたといわれる。

たいこいし
⑥太鼓石

富士の巻狩のおり、源頼朝は滝の近くに一夜の陣を敷いた。その夜、滝の下でドンドンと太鼓を打つような音がしたので滝壺を探させてみると、中が空洞になった太鼓の胴のような石が出てきた。そこで、太鼓石と名づけられたという。

じんば たき
⑦陣馬の滝

富士の巻狩のおり、源頼朝がこの滝の近くに一夜の陣を敷いたことから「陣馬の滝」と呼ばれるようになったという。上流から流れ落ちる水と溶岩層の間から湧き出した水とが滝をなしている。ここでは、白糸の滝と同じように、富士山麓の湧水の仕組みを見ることができる。

なでがわ
⑧撫川

富士の巻狩のおり、源頼朝が矢の根で地面を撫でたところ、その場所から清水が湧き出し、その水で大勢の武士が渴きをいやしたという。そこで、その川を撫川というようになったといわれる。

いのかしらゆうすいぐん
⑨猪之頭湧水群

猪之頭地区には多くの湧水がある。これらの湧水は芝川の源流にあたり、鱒の養殖やワサビ田などの用水として使用されている。

地図番号	場所	面積	湧水量/日
①	陣馬の滝	420.37 m ²	約 48,000 m ³
②	陣馬の滝東側	82.80 m ²	約 13,000 m ³
③	五斗目木橋西側	35.80 m ²	約 14,000 m ³
④	向山荘跡地東側	14.80 m ²	約 13,000 m ³

(富士宮市指定保存湧水池一覧より)

ふじ まきがり
富士の巻狩

建久4年(1193)、源頼朝は東国武士の武力を朝廷に見せつけるために、御家人を集め富士山麓で大規模な狩りを催した。「富士の巻狩」といわれるこの狩りは、富士宮市北部一帯(上井出・白糸・人穴・猪之頭地区)がその舞台のひとつであったと考えられている。